クリニカルパス委員会

整形外科　主任部長　西井幸信

委員会概要

クリニカルパス（以下、パス）委員会では毎月 1 回、各部署のパス委員が参加して委員会を開催しており、さらにワーキンググループ活動として教育・啓蒙部門、作成パス検討部門、バリアンス分析部門でのミーティングを行っています（感染拡大防止のため開催不定期）。

委員会とは別に原則毎月第 1 土曜日にパス改定会を開催しており、改定するパスの専門病棟看護師・医師・コメディカルらが集まりパスの改定を進めています。新規導入や改定を進め、医療の標準化・質の向上を目指します（感染拡大防止のため休会）。

3 月には委員会事務局として 6 年務めた診療情報課の岡林若葉に代わり、同じく診療情報課の吉原悠衣が新しく事務局としてメンバーに加わりました。4 月には副委員長の一人である消化器内科の岡田光生先生に変わり、同じく消化器内科の梅下仁先生を新たに副委員長として迎えました。梅下先生には、作成パス検討ワーキンググループのグループ長として、数多くのパス改定、作成の検討に関わっていただきます。

コロナウイルス感染拡大におけるパス活動への影響

昨年に引き続き感染拡大防止を優先した委員会活動となりました。

定例委員会は当院の COVID-19 対応目安レベルに準じて開催の有無を検討し、開催時には会議室の窓・ドアを開け、終了後には机・椅子をアルコール消毒する等の感染対策を講じました。本年は委員会内のメンバーの入れ替わりが多く、ほとんどの委員がパス活動に関して未経験であったため、基礎的な内容（委員会および各ワーキンググループの活動内容の説明、バリアンスの分析方法等）を習得することから始まりました。

パス改定会は昨年に引き続き原則休会とし、作成・改定を急ぐものについては、電話やメールといった手段を使って改定を進めました。

年 2 回開催しているパス大会も見合わせ、未だ開催予定はありません。

まだ終息の目途は立たず例年のような活動は出来ませんが、必要なこと、出来ることを着実に進めて参ります。

地域連携パス活動

脳卒中地域連携パスと大腿骨頚部骨折地域連携パスの 2 種類ありますが、現在はパス委員会でなく、各科（脳神経外科、整形外科、近森リハビリテーション病院、近森オルソリハビリテーション病院）にて管理しております。

パスの作成・改定状況

今年は新規のパスを 2 種（腹腔鏡下根治的腎摘出術、腹腔鏡下腎部分切除術）導入し、2 種（t-PA、脳血栓回収術）の改定を終えました。オルソリハビリテーション病院で使用していた 2 種（人工膝関節置換術後 TKA（オルソ回復期）、人工股関節置換術後 THA（オルソ回復期））については、回復期の個別性に適応できないと判断し、3 月末に廃止としました。

2022 年末の時点で 81 疾患 95 種類のパスが稼働しています。

使用率

年間平均使用率は 47.1％と例年よりわずかに減少しました。（図 1）。

全体としては、委員会設立以降少しずつですが使用率は増加しており（図 2）、目標年間使用率の 60％に近づいています。しかし、まだまだ届かない現状です。パス使用の少ない診療科への新規作成の呼びかけ、使用率の低いパス、作成から時が経つパスの改定を試みるなど活動し

ていきます。

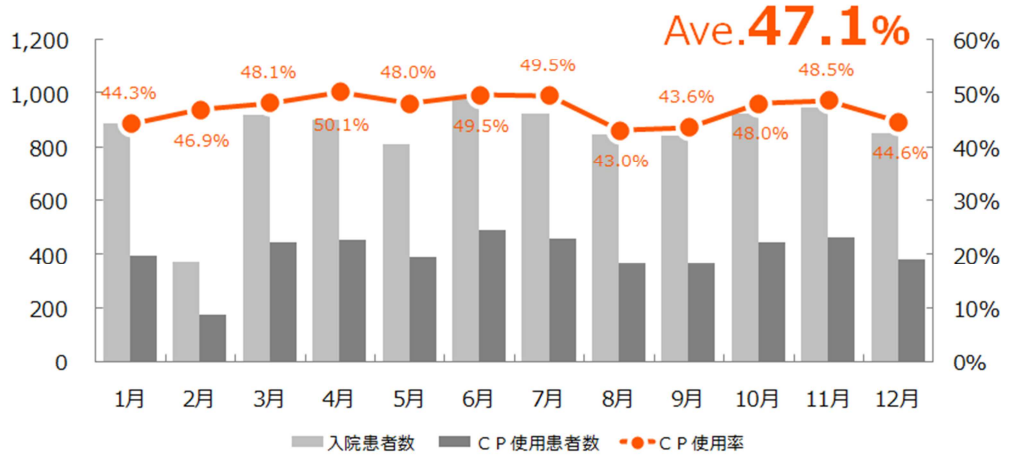

図１　パス使用率年間推移（2022 年）

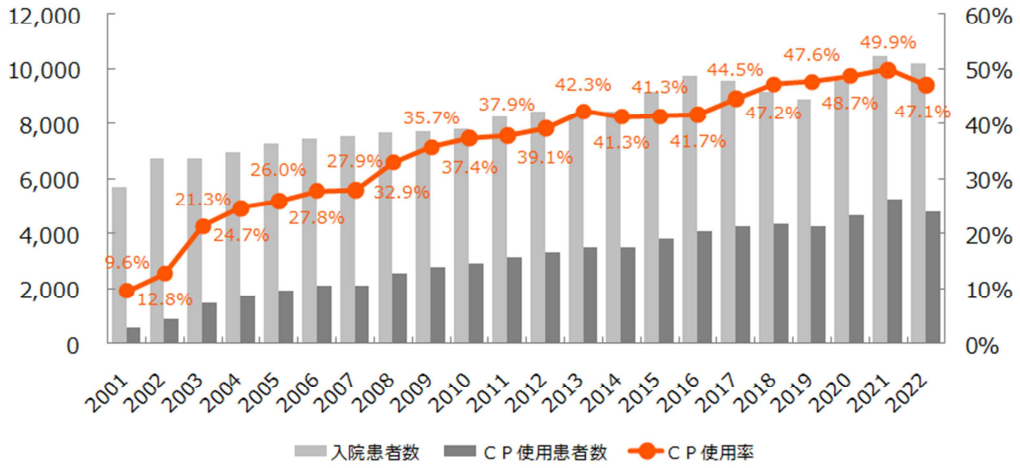

図２　委員会設立以降のパス使用率推移（2001～2022 年）

ワーキンググループ活動

パス委員会を下記の３つに分類し、個別に活動を行っています。

①作成パス検討ワーキンググループ

改定会にて作成したパスを他科の医師・専門病棟以外の看護師・多職種で再度確認することにより、医療の標準化、質の向上を目指します。

今年も定例委員会未開催の多い年でしたが、４回という少ない開催の中で、心臓血管外科の「下肢静脈瘤高周波血管内焼灼術」、整形外科の「経皮的全内視鏡下脊椎手術（FESS)」、循環器内科の「経皮的僧帽弁クリップ術（Mitra Clip)」について新規作成に向けた検討を行いました。年内の稼働とはなりませんでしたが、2023 年には新規稼働となります。

②バリアンス分析ワーキンググループ

改定会を予定しているパスのバリアンス分析を事前に行っています。分析結果やその他修正の提案を受け、改定会で話し合いを進めています。

今年は例年のようなバリアンス分析は行っていませんが、コロナ渦で改定会が行えない中どのような活動を行っていくのか話し合いました。改定会のない間に時間が経過し内容が古くなったパスを新たにするため、前回の改定から3～6年以上経過するパスを抽出しリスト化しました。来年は、このリストから改定の必要性が高いパスを絞り、改定につなげていきます。

③教育・啓蒙ワーキンググループ

新入職員パスオリエンテーション、病棟別パスレクチャーなど開催し、職員の知識・理解を深めます。

今年もWebを利用した新入職員クリニカルパスオリエンテーションを行いました。昨年より試みているWeb受講ですが、期間内の受講率は100%であり、パスの基礎知識を漏れなく普及させる手段として手応えを感じています。

また新入職員を対象としたパステストを作成しました。このテストは基礎的な内容と専門的な内容（病棟別）で作成しており、配属先でより理解を深めてもらうことを目的としています。

パス大会

今年はコロナウイルスの影響にて開催しておりません。

学術発表・講演会等

発表はありませんが、岐阜県で行われた「第22回日本クリニカルパス学会学術集会」へ聴講のため、参加しました。

アンケート調査への対応

・クリニカルパスの実態に関する調査
依頼元：一般社団法人日本クリニカルパス学会（2022年7月28日 提出）